

【災害に備える】

# 地域ぐるみで災害に備えよう

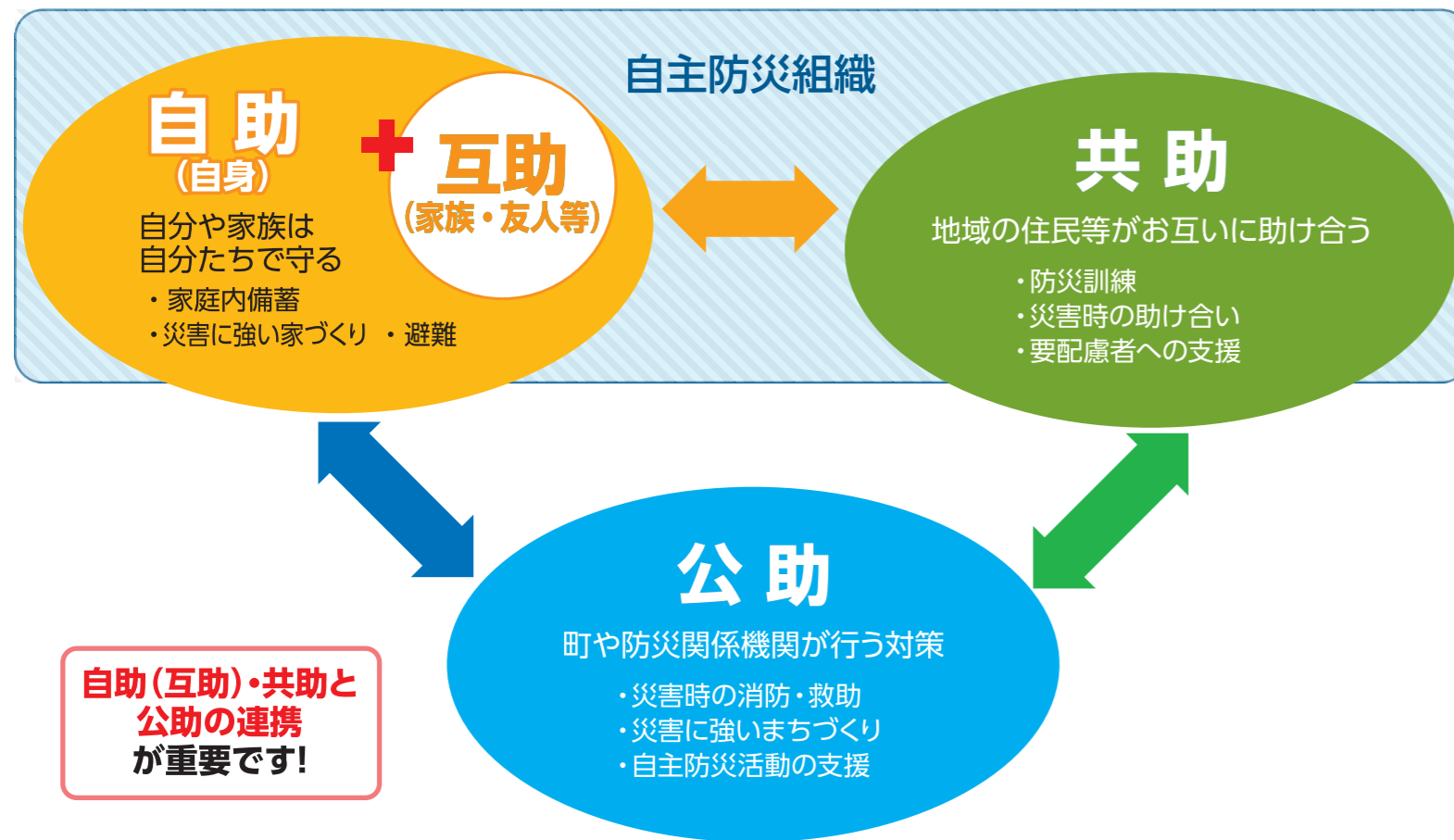
地域に暮らす私たちは、お互いに助けたり、助けられたりする関係にあります。近所や地域の方とのつながりを育むことが、自身や家族の命を守ることに繋がります。



## ●地域みんなで助け合おう

大規模な災害時には、行政の対応能力（公助）を超える被害が予想されます。そのため、全ての住民が自分の身を守ること（自助）に全力を尽くし、自分がケガをせずに生き残ることを最優先に行うことが基本です。しかし、高齢者など自助が難しい方には、家族や友人、隣人たちと助け合うこと（互助）が大切です。

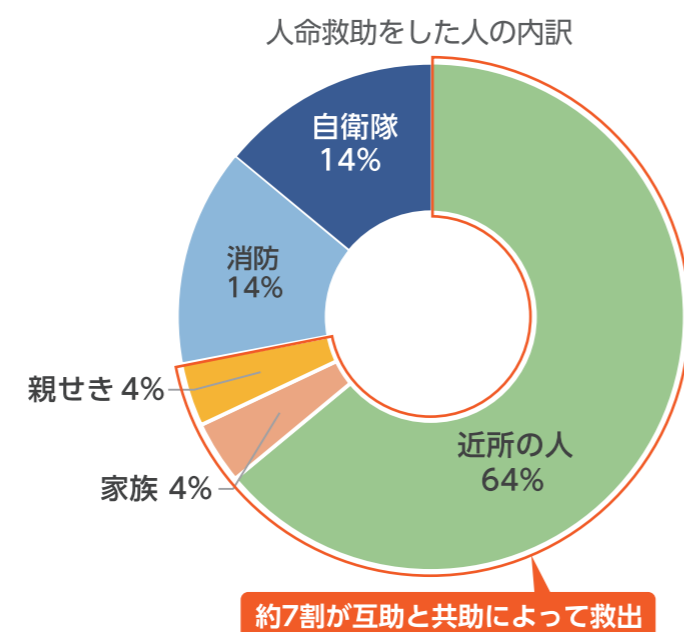
いざというときに助け合うためには、日ごろからあいさつを交わし合い、顔見知りになることから始めてみましょう。



## ★互助や共助が命を救う

自主防災組織は、地域住民が自発的に防災活動を行う組織です。阪神淡路大震災の際、がれきの下から救出された人の6割以上が「近所の人によって助け出された」という調査結果もあります。

「自分たちのまちは自分たちで守る」という心構えで自主防災組織に積極的に参加し、災害に強いまちづくりを目指しましょう。



『1995年兵庫県南部地震による人的被害(その5)神戸市東灘区における人命救助活動に関する聞き取り調査』宮野道雄(大阪市大)他1996年日本建築学会大会学術講演梗概集

## ●地域での防災の取り組み

まずは、できることから始めてみましょう

### ①自主防災組織に参加する

大規模災害時に頼りになるのが、地域の住民で運営する自主防災組織です。篠栗町では、全行政区に自主防災組織がありますので、積極的な参加をお願いします。



### ②防災訓練や防災研修に参加する

町や地域、消防団が主催する防災訓練や避難所運営訓練などに参加することで、地域防災力に加え、自身の防災力も向上します。



### ③ご近所ネットワークに参加する

各行政区の組合や子ども会育成会などの活動に参加することは、地域のつながりをつくる一番の近道です。また、近所の人との挨拶や会話を重ねることや、広報紙などに掲載される地域のイベントや公民館などで開催される各種講座に参加することも地域の輪に入る方法のひとつです。

※組合などに加入したい方は、各行政区の区長か役場総務課にお問い合わせください。

### ④いざという時の援助を頼んでおく

高齢者世帯などで、自分たちだけでは速やかな情報収集や避難が難しい場合もあります。心配な場合は、事前に親戚や近所の方などに、いざという時の援助などを相談しておきましょう。

※避難が困難な方については、下記の「災害時要配慮者制度」の活用もご検討ください。(下記詳細)

## 高齢者や障がいのある方を災害から守りましょう

### 災害時要配慮者避難支援制度

篠栗町では、災害時に自身で避難することが困難な方の避難誘導や、避難生活での支援体制を整えるため、基本的な考え方や進め方などをまとめた「災害時要配慮者避難支援プラン全体計画」を平成23年7月に策定しました。

平成25年6月、災害対策基本法の一部改正により、高齢者・障がい者・乳幼児などを特に「要配慮者」と定められたことを考慮して、この制度の呼称を「災害時要配慮者避難支援制度」と決めました。

### 災害時要配慮者避難支援制度の仕組み

一人暮らしの高齢者や障がい者、難病患者など、災害時の一連の行動をとるのに支援を必要とする人に対して、近所の人をはじめ、地域の皆さんで支援する仕組みです。登録された要配慮者の情報を、支援組織(自主防災組織、民生委員、福祉協力員など)で共有し、災害時の避難情報の伝達や避難誘導、安否確認に役立てます。

一緒に避難しませんか?



●登録の希望・問い合わせ: 篠栗町役場福祉課 092-947-1347

●ホームページ: <https://www.town.sasaguri.fukuoka.jp/kurashi/bosai/2139.html>